
 新刊紹介

Irvine, L. M. and Chamberlain, Y. M.: *Seaweeds of the British Isles. Vol. 1. Rhodophyta, Part 2B Corallinales, Hildenbrandiales.* vii+276 pp. 1994. The Natural History Museum, London. ISBN 0 11 3100167. 価格30ポンド。

HMSO Books, PO Box 276. London SW8 5DT.
Credit Card Order: Fax 071-873-8200.

イギリス海藻誌 *Seaweeds of the British Isles* のシリーズの紅藻の部分は5部に分けられ、そのうち第4番目にサンゴモ目 *Corallinales* とベニマダラ目 *Hildenbrandiales* を扱った Part 2B が新しく出版された。あと Part 3B のウシケノリ綱 *Bangiophyceae* で紅藻が完成する。

この分冊は Irvine と Chamberlain の共編で、そのうち有節サンゴモについては Johansen が協力している。記述の体裁はこれまでの分冊と同様である。

30ページにわたる Introduction は *Corallinales* についての詳しい解説で、その形態と生態、研究史などが適切に纏められている。

各論では、サンゴモ科 *Corallinales* の5つの亜科の14属、すなわち *Choreonema*, *Corallina* サンゴモ属, *Haliptilon*, *Jania* モサズキ属, *Lithophyllum* イシゴロモ属, *Titanoderma* ノリマキ属, *Hydrolithon*, *Pneophyllum* モカサ属, *Exilicrusta*, *Leptophyllum*, *Lithothamnion* イシモ

属, *Melobesia* サビ属, *Mesophyllum*, *Phymatolithon* に含まれる44種について、検索表とともに詳細な記載と図解が与えられている。また、タイプ標本についての情報も含まれている。これらの属は日本にも産するものが多い。最近、属のタイプ種のタイプ標本の再検討が行われ、属の定義の見直しが進んできて、そのため、命名上にも多くの変更がなされてきている。この出版物でも、*Hydrolithon* が *Fostiella* よりも古い正名とされている。また、1993年の国際植物科学会議（横浜）で採択された保留属名の一つに *Phymatolithon* があり、*Apora* に対して保留された。これらは日本産の種の取り扱いにも影響がある。

ベニマダラ科 *Hildenbrandiaceae* も目のレベルで取り扱われている。

この分冊もこれまで出版された分冊と同様、非常に高度なモノグラフである。21ページにわたる引用文献の表とともに、術語の解説もあってサンゴモ科に独特な用語についての理解もえられる。ただ、一つだけ間違いを指摘すると、Fig. 118のAとBが逆になっている。

まだ完成していない分冊（紅藻の *Bangiophyceae*, 褐藻の半分, *Cyanophyta*, *Prymnesiophyta*, *Bacillariophyta*) の発行が待たれる。

(北大・理・生 吉田忠生)

 新刊紹介

Christensen, T.: *ALGAE A taxonomic survey*. xi+472 pp. 1980-1994. AiO Print Ltd., Odense, Denmark

第1巻 (Fasc. 1.) paper bound 115 デンマーククローネ (DKK) (1980)

第2巻 (Fasc. 2.) paper bound 125 DKK (1994)

第1巻 + 第2巻 (Fasc. 1+2) paper bound in 2 volumes 200 DKK (1980, 1994)

第1・2巻合本版 (Fasc. 1+2) in one bound volume (hard cover) 260 DKK (1980-1994)

本書はデンマークの Christensen 博士による英語で書かれた藻類の系統分類の総説書であり、上であげたようないくつかの形で販売される。前編に当たる第1巻 (Fasc. 1.) はすでに1980年に刊行されており、今回後編にあたる第2巻 (Fasc. 2.) が刊行された。さらに第1巻と第2巻を合本したハードカバーのものも販売されるが、このハードカバー版はなかなか不思議な成り立ちの本である。すなわち前編に相当する部分は1980年に刊行された第1巻の本文部分そのままじ込まれており、後半部分とは紙質も明らかに異なっている。従ってすでに第1巻を持っておられる方は第2巻を購入すれば十分で、合本版を買っても前半部分に全く変更はない。

内容については、本書は良い意味でも悪い意味でもきわめてオーソドックスな藻類学の教科書である。全体を通してさまざまな藻類の系統群についての形態、生活史、および分類などが記述されている。図版は光学顕微鏡レベルの線画がほとんどで写真の図版はない。しかし単に教科書的な知識と他の研究者の最近の研究成果をただわかりやすく紹介したカタログ的な

教科書ではなく、進化・系統群としての藻類全体をどうとらえるかという筆者自身の主張も強く感じられる。ちなみに筆者は1966年にデンマーク語で書かれた藻類学の教科書 (Botanik, Bind II Systematisk Botanik Nr. 2 Alger, 180 pp., Munksgaard, Kobenhavn) を出版しておられるが、本書 (Algae) はその改訂・英語版に相当し、図版もかなりの部分がこのデンマーク語版から採録されている。らん藻 (シアノバクテリア) を含む藻類全体が Cyanophyta (1綱), Rhodophyta (1綱), Chromophyta (9綱), Chlorophyta (6綱) に分けて紹介されているが、このうち Chromophyta の Glaucocystophyceae と、Chlorophyta が今回の第2巻に納められている。

第1巻は出版当時の藻類学における新知見を積極的に紹介しており非常に参考になったが、その出典 (著者・論文・雑誌名など) が示されていないという欠点があった。今回の第2巻ではこの欠点をおぎなうべく、第1巻の内容も含めて関連する文献のリストと図版の出典があげられている。リストは本文のページ順にており、とってつけたような印象をあたえ必ずしも使いやすいとはいえないが、やはり有用である。また第1巻が発行されてから14年もたってから第2巻が刊行されているためか、第2巻 (または合本版の後半部分) には第1巻の内容に関するかなり充実した補遺が載せられている。これは結果的にこの十数年の間に出版された主な藻類学の研究成果に関するレビューになっており、非常に参考になる。また、第2巻は付録 (?) としてほとんどの藻類の属の名の語源集が載っており、著者のラテン語・ギリシャ語などの古典語への造詣の深さがうかがえる。(神戸大理学部・川井浩史)